

「シベリアンハスキーのプー」

今日は校長先生が飼っているペットの話をしたいと思います。

「シベリアンハスキー」という犬の種類を知っている人はいますか？大きな犬で体重が 25kg位あります。この犬はもともと北極など氷や雪が多い寒い地域で暮らし、雪の中でも眠ることができる特技があります。よくテレビなどでそりを引く映像を見たことがありませんか？実は校長先生の家にこの「シベリアンハスキー」が暮らしています。名前をプーといいます。本音を言うと校長先生はあまり犬が好きではありません。

では、何故プーが校長先生の家にいるのでしょうか？

校長先生の家の近くに、捨てられたり、虐待を受けたりした犬をボランティアで引き取って育てている方がおられます。少しでも処分される犬を救いたいという思いから、活動を続けておられます。それを知った先生の家族が「少しでもその活動に貢献したい！」「我家で引き取りたい」と言い出し、飼うことになりました。しかし、実際に飼うとなると 1 時間以上の散歩を 1 日 2 回行かなければならぬし、餌もたくさん食べるし、ウンチの処理もあるし、病気をすれば病院にも行くなど、プーに振り回されることも多くなり、なかなか大変なのですが、少しでも貢献したいと頑張っています。

去年よりコロナ禍でペットを飼い始める人が増えているそうです。どうしてでしょうか？やはり家で一人ぼっちの時間がが多くなり、癒しを求めているのでしょうか？

ところがいざ飼い始めてみるとプーのように楽しいことだけでなく、様々な面倒なことも出てきます。それが嫌になってペットを捨てたり処分したりする人も増えているそうです。ちょっと勝手だと思いませんか？ペットは生き物でおやつやゲームなどのモノとは違います。簡単に捨てたり処分するということは殺すことと同じことなのです。

ここ何年かで新型コロナウイルスの流行やロシアのウクライナ侵攻などにより、どうも「命」ということが軽く扱われるようになってきたように思えて仕方ありません。みんなの命は一人一人かけがえのないものです。周りの人の命もそうです。又、動物の命も同じです。すべての命を大切にしていきたいですね。

皆さんには、命を守る側の人間に成長していってほしいと思います。